



通信

HP 学校だより
R6. 11. 20
NO. 29
文責 伊藤美佳



学芸会で成長する

16日（土）に開催した豊坂小学校学芸会では、ご来賓や地域の方々、保護者の皆様にご参観いただき、子どもたちが成就感を得られた、笑顔あふれる会となりました。ご来賓の方々より、「元気をもらえたよ」「高学年になると、伝えたい内容が心にぐっとくるね」など、温かいお言葉をいただきました。

さて、学芸会での子どもたちの成長ポイントはどこでしょうか。「台詞を覚えるとき」「なりきって演じているとき」と思う方が多いかもしれません。もちろん、人前で大きな声で台詞を言うということは、とても緊張することなので、それを乗り越えて演じたことが成長ポイントだと言えるでしょう。見方を変えてみると、台詞を覚え、どこでどう動くか分かった上で、更に自分の役はどう演じたらいいのか、この場面はどういう場面なのかを子どもたち自身が考え始め、演じ始めたら、それが真の成長ポイントだとも言えます。1年生から6年生までという発達段階の違いはありますが、自分の役を考えるために友達の台詞の意味を考えたり、場面の設定を検討したりできたらすばらしいです。

防災を考える

19日（火）に4年生が役場の防災安全課の方々をお招きして、防災教室を開催しました。体育館裏にある備蓄倉庫の中を見せてもらったり、体育館前にあるマンホールトイレについて学んだりしました。また、体育館では、段ボールベッドを実際に作り、そのの上に乗ったり、寝たりして実際の使い心地を体験しました。令和6年は、大きな地震で始まりました。子どもたちにとっても「防災」は他人事ではなくなっているように感じます。この学習から、学校が避難所となったとき、自分たちには何ができるのか考え、行動できるようになってくれることを期待します。



ヒマラヤスギの「松ぼっくり」

豊坂小学校の西にある門を出たところにヒマラヤスギが生えています。マツよりも大きな「松ぼっくり」が枝の先についているので知っているかもしれません。ある日、そのマツボックリが落ちてきて、それを拾った先生が「この先どうなっていくかみたいです」と言って、中央玄関に展示しました。はじめは、松脂（マツヤニ）で固められている感じでしたが、日に日に、下の方から開いてきました。最後まで開くとどうなるのか楽しみで、毎日、写真を撮っています。なぜ、開くのでしょうか？不思議に思って調べてみる子どもが現れるといいなと期待しています。

